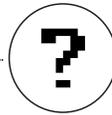


Frequently Asked Question



いまさら聞けない



いまだから聞きたい

このコーナーでは読者の皆さんのインターネットに関する疑問や質問にお答えします。「?」と感じたことはどのようなことでも構いませんので、以下のメールアドレスまでご質問ください。なお、ご質問へのメールでの回答はできませんのでご了承ください。

ご質問はこちらまで
im-welove@impress.co.jp

今月はこれまでにメールやハガキなどで寄せられた質問の中からピックアップしました。

今月のポイント

1 ADSLの接続タイプの選び方

2 プロバイダー利用者のサーバーの立て方

Q

ADSLを導入しようと思うのですが、「USBタイプ」とか「ルータータイプ」とかがあってよくわかりません。それぞれがどういうもので、いったい、どれがいいのでしょうか?(S・Kさん)

A

ADSLモデムには「ルータータイプ」「USBタイプ」「ブリッジタイプ」の3種類があります。プロバイダーやADSLキャリアによって提供しているADSLモデムのタイプは異なりますが、上記の3種類のどれかが提供されているはずで、ここでは各タイプの特徴を説明していきましょう。

まず、ルータータイプ(ルーター型)モデムは、その名のとおりルーター機能を備えたADSLモデムです。DHCP機能を備えているので、プロバイダーがユーザーに割り当てるIPアドレス(グローバルアドレス)はADSLモデムに割り振られる形になり、ユーザーのPCにはDHCP機能でプライベートIPアドレス(LAN内のIPアドレスだと考えてください)を割り振ります。通常、プロバイダーから割り振られるグローバルIPアドレスは1つですが、ルーターのDHCP機能を使えば複数のプライベートIPアドレスが使えるので、複数のPCを接続する人はルータータイプが便利です。

USBタイプ(USB型)はPCとモデムをUSBケーブルを使って接続します。最近のPCにはUSBポートが付いているので、接続はとても簡単です。またブリッジタイプ(ブリッジ型)は、イーサネット端子を1つ備えたADSLモデムです。ブリッジタイプのモデムを使うには、PCにイーサネットカードが必要になります。これらのタイプでは、プロバイダーから割り当てられたIPアドレスがユーザーのPCに直接割り振られるので、外部のネットワークから自分のPCが丸見えになってしまう危険があります。

どのタイプか迷っているのでしたらルータータイプがいいと思います。セキュリティ

上の安全性が高いことがその理由です。ルータータイプのADSLモデムを使っている場合、外部のネットワークからユーザーのPCを見ることができません。グローバルIPアドレスはADSLモデムが持ち、ユーザーのPCはプライベートIPアドレスを利用しているからです。USBタイプやブリッジタイプでは、PCがグローバルIPアドレスを持つので、ネットワーク越しに自分のPCが見られる心配があり、不正アクセスなどの危険が高まります。そのためブリッジタイプを利用する人は、別途ルーターを用意して使うことをおすすめします。

(編集部)

ADSLはルータータイプがおすすめ!



自宅にADSLを導入したのでサーバーを立てようと思うのですが、IPアドレスが固定じゃないとできないと聞きました。固定IPアドレスがもらえるプロバイダーに乗り換えないとダメですか？(K・Aさん)



自宅などで構築したサーバーに対してインターネットからアクセスするには、IPアドレスまたはドメイン名の情報が必要です。契約しているプロバイダーによって、割り当てられるIPアドレスが固定されているもの(固定IPアドレス)と、接続するごとに動的に変わるもの(動的IPアドレス)があります。固定IPアドレスの場合、そのIPアドレスを指定すればインターネットからアクセスできますが、動的IPアドレスの場合はそれも不可能です。

また、IPアドレスが固定か動的かにかかわらず、通常はドメイン名は割り当てられていませんので、ドメイン名を使ったアクセスはできません。これは、ドメイン名とIPアドレスの関連付けの情報を持っている「DNS」(Domain Name System)に登録されていないからです。

ここで登場するのが「ダイナミックDNS」です。このダイナミックDNSを利用すれば、たとえIPアドレスが動的に割り当てられている場合でも、インターネットからドメイン名を指定して自宅のサーバーにアクセスできるようになります。ここでは、このダイナミックDNSサービスの仕組みを解説していきましょう。

右図のように、プロバイダーから動的に割り当てられたIPアドレスを、そのたびにダイナミックDNSサービスを提供しているサーバーに登録します。これで、サービス利用時にあらかじめ決めておいたドメイン名に対して、IPアドレスが関連付けられることになります。

インターネットからドメイン名を使ってア

ダイナミックDNSを使えば 動的IPでもサーバー構築OK!

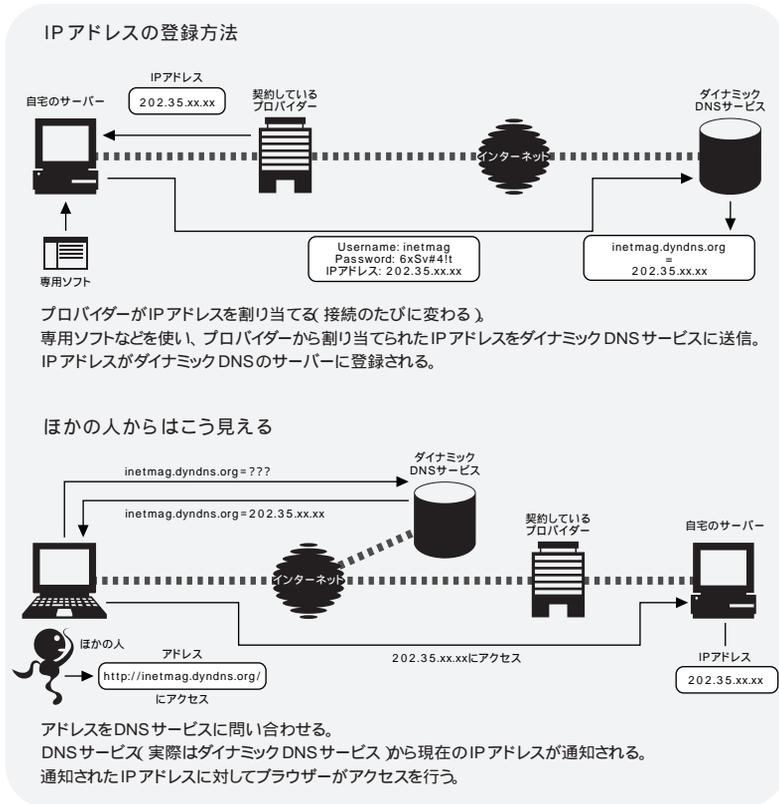
クセスする場合、そのドメイン名のDNSサーバーに対してIPアドレスを問い合わせます。今回の場合、問い合わせを受けるDNSサーバーが、実際はダイナミックDNSサービスを提供しているサーバーというわけです。ダイナミックDNSは、問い合わせに対してその時点で保持しているIPアドレスの値を回答します。利用者は、回答元が普通のDNSかダイナミックDNSかに関係なく、通常どおりIPアドレスを受け取り、

それを用いてブラウザなどを使うことができるわけです。

このようなダイナミックDNSサービスは、プロバイダーが提供しているものや、ダイナミックDNSサービスを単独で提供しているものがあります。ドメイン名としては、サービスを提供している組織のサブドメイン名を使うものや、独自のドメイン名を取得して使えるものもあります。

(本誌アドバイザー 井上尚司)

ダイナミックDNSの仕組み





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp